

がん談和会通信 ころろ

冬の訪れを感じる季節となりました。談和会では9月に15名、11月は13名の患者さん・ご家族が交流されました。女性の参加者が多い会ですが、最近は男性の方にもご参加いただいています。がん発症後まもなく状況の受け入れができない方や、再発・転移の怖さを語られる方に対して、周囲の方々がサポートタイプに対応されて、とても穏やかな気持ちで帰られた様子でした。

談和会の中で、医師など医療者に対して「診察室に入ると緊張して何を聞いていいかわからない」と語られた方がいました。主治医はあなたの一番大事な情報源なので、話す際は後から見直せるようにメモをとりましょう。またその後の質問リストをまとめておくのも良いと思います。また、書籍やインターネットなど様々な情報源があります。ご自身で、確かな情報を調べておくと、治療への理解度や医師とのコミュニケーションも変わってくるかもしれません。もちろん談和会に参加してもらえば、ベテランの患者さん達から医療者とうまく付き合ってきた体験談を聞くことができます。

お役立ちコーナー

患者必携「わたしの療養手帳」

編著 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター

治療に向かう段階ごとに、重要な情報やあなたが大切にしたいことが変わってきます。あなたの状況に合わせて、説明されたことや、あなたの希望を書き込めるものです。診断されて1年ぐらまでの利用を目安につくられています。必要なページを印刷してつかってみてはいかがでしょうか。



●その情報は大丈夫ですか？ 当てはまったら要注意！

情報が古くありませんか？医療は日進月歩。現時点で最良の内容ではないかもしれません。

保険診療で受けられない治療ではありませんか？

一部の民間のクリニックや病院において「自由診療として行われる治療(免疫療法など)」は、効果が証明されておらず、医療として確立されていないものがあります。

こんな言葉が入っていませんか？「必ずよくなる」「〇〇すれば治る」「奇跡の」「特別な」「副作用がない」「どんながんにも効く」「がんが消えた」……これらは耳障りがよい宣伝文句として使われることが大半です。

「わたしはこれでがんが治った！」ある人に効果があった治療法があなたのがんにも効くかはわかりません。

出典：国立がん研究センター「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」

「がん細胞 正月くらいは寝て暮らせ」 どんな時でもユーモアを忘れない心は大切です。

(『人生の実力 2500人の死をみとってわかったこと』著者：柏木哲夫 より)

がん談和会の開催日時

奇数月の第3木曜日 14:15~15:15

当院2階 第15会議室

来年の開催予定日：1/16(木)、3月は祝日のため休会

がん談和会通信『ころろ』

のバックナンバーは、
QRコードを読み取って
ご確認いただけます。



通信に対するお問い合わせは、がん相談支援センターへどうぞ！ 編集局 ころろ
安城更生病院 がん相談支援センター（医療福祉相談室）☎0566-75-2111

